

# 研修会活動のあゆみ

## —1990年から現在まで

研修部 林 伴 子 (社会保険神戸中央病院図書室)

近畿病院図書室協議会では、設立当初より会員への啓蒙活動を行ってきた。その中で主たる役割を担ってきたのが研修会である。

設立15周年を機にそのあゆみを振り返ってみたが、今回はその後の状況について報告する。

### 1. 研修会のテーマ

設立当初は実務的な面を重視した研修会が多く行われてきた。第59回研修会からは実務とは言っても、整理や分類などの基本業務よりも新しい動向を共に学べるようなテーマを組むようになってきた。

特に、パソコン、CD-ROM、ファクシミリ等、機器の普及には目を見張ものがある。担当者も、ハード面を理解しなくても、利用できる能力が要求されるようになってきたため、それらを対象にした、研修会が多くもたれた。

また、1993年春からの製薬会社のMRの文献複写サービスの自粛が始まり、文献の相互貸借の需要が高まったため、1993年度は相互貸借を中心とした研修会に終始した。

### 2. 事例・研究報告会

従前より事例報告会を行ってきたが、身近な事例だけでなく、研究成果も報告してもらおうと、“研究”報告も行えるようにした。

しかし、応募は少なく、活性化をはかることが今後の課題として残されている。同じ形で存続するか否かも含めて検討して行きたい。

### 3. 名古屋研修会

東海地区会員を中心とした企画運営で行ってきた。現在まで5回開催され、非会員の参加も多い。東海地区医学図書館からの講師による講義等、地区の利点を活かした研修会となった。

以上のように、これまで一定の役割を果たしてきたが、1994年度は創立20周年の記念行事もあり、春に勉強会を行ったのみで、名古屋研修会としては、開催しなかった。

今後のあり方についてさらに検討して行きたい。

### 4. 日本病院会全国図書室研究会の開催

報告期間中、2回行った(1990、1992年)。シンポジウム、特別講演等、定例の研修会ではなかなかできないプログラムを組めたのは有意義であった。しかし、2日間にわたる研修会のため、準備に多くの時間を要した。

また、協議会会員の参加が比較的少ないのは以前より、問題となっていることではあるが、定例に比べて参加費が高いことなどを考えると、次回開催には多くの問題がある。

## 5. 勉強会

以前より研修部の懸案事項であった新人教育を中心とした勉強会を1990年度より行うこととなり、3回を数えている。

一人勤務の多い病院図書室では業務の引き継ぎが巧く行えないまま、不安を感じている担当者も多くいると聞く。少人数での勉強会は研修会とはまた違った雰囲気で行えて、有意義であった。

## 6. 今後の課題

全国研、名古屋研修会、事例報告会などの取り組みについては、それぞれの項で記した

ごとくであるが、今最も問題となっているのは新入会員に向けての研修のあり方である。

前述した通り、MRの文献複写サービス自粛の影響は非常に大きい。会員数もこの2年間で約30機関近く増えた。その大半は文献の相互貸借を期待したものと考えられるが、相当者が不慣れな場合が多く、早急な対策が必要である。その解決方法の一つとして勉強会を役立たせて行きたい。

また、会員全体のレベルアップをはかることが研修活動の主たる目的であることは言うまでもない。今後も、複雑化してゆく、図書室業務に対応できる研修会の開催を目指して行きたい。